

事前配布資料について

お送りしている資料は、前回（令和2年12月25日開催）資料と同じ構成で資料1から3までとなっており、これまで、皆さまよりいただいたご意見を踏まえ修正しております。

修正した主な点をお示します。

資料1 倶知安町の景観特性

P1 倶知安町全体の景観特性の捉え方

・これまでのご意見を踏まえ、要素階層を見直しました。

前回	人々の愛着	今回	人々の愛着・文化
	産業（観光）		暮らし・産業
	産業（農業）		まちの基盤
	暮らし		農業
	自然・地形		自然・地形

- ・前は階層に「観光」が入っていましたが、産業の1項目に該当するということで「暮らし・産業」に入れております。
- ・「農業」は倶知安町の基幹産業であり、自然環境と密接にかかわりあう景観を象るものとして、残しています。
- ・前回の「暮らし」については、道路や街区などの「基盤」に関わるものと、基盤の上に立つ住宅や事業所などの“モノ”として「暮らし・産業」を分けました。
- ・今の町の様子を理解する上では、歴史的背景を押さえることの大切であろうということで、要素ごとの歴史的変遷を簡単にまとめてみました。

P4 倶知安町の景観をつくる要素や資源（前回の資料ではP3）

- ・P1の要素階層の修正を踏まえて、修正しております。（資源の内容については大きな変更はしておらず、階層同士の組み換えなどで対応）
- ・前回の意見を踏まえ、季節ごとの景観要素に編集しました。なお、季節を通して変わらない景観資源について「オールシーズン」という括りで整理しております。

資料2 地域（面）・軸（線）・視点（点）から見た景観要素と課題／歴史・文化の資源

P1～P6 ※ 前回のご意見を踏まえ、表現の追加等を行っています、構成等の大きな修正はしていません。

P7～P8 歴史・文化の資源

- ・前回の会議では、今の街並みの中に、歴史的な背景が隠れていることなどを認識しておくことが大事というご意見がありましたので、歴史・文化に係る資源を整理し、分布図にまとめました。

資料3

景観の基本理念案、基本方針案、地域区分イメージ、分野別方針(案)

P1 景観の基本理念と基本方針

- ・これまでいただいたご意見を踏まえ、基本理念(案)を事務局で作成しました。

「人が未来へつなぐ羊蹄の輝き」

なお、これまでいただいた基本理念等に関するご意見については、次ページに整理しております。

- ・行動指針について、理念などのご意見を伺っている中で、「愛着と誇り」がキーワードの一つと捉え、これを活かす形で修正しました。

旧 先人から受け継いだこの大地を損なうことなく、より良く、より美しく、
次の世代につなげる

↓

新 先人から受け継いだこの大地を大切にし、愛着と誇りを育み、
次の世代につなげる。

- ・4つの姿勢は変更なし
- ・基本方針は、前は4つにしておりましたが、人々の誇り・愛着を育むことが景観づくりに堆雪な方向性と考え、5つめの方針を追加しました。特に理念に関するご意見をいただいた中で、「守る」「伝える」「活かす」ことの大切さや「景観文化」という新たな概念については、まさに、この5つめの方針の内容にダイレクトにかかわるだろうということで反映しました。この方針は今後の私たち一人ひとりの行動に関わってくるものと考えております。

P2~4 ※細かな修正等をしていますが、構成に大きな変更はありません。

検討会議・ヒアリングによる「理念」「行動指針」「基本方針」に係る意見(キーワード)

- ・ 未来に対しては「規制」という言葉が入ってきてもいいかもしれない。
- ・ 4(基本方針)の「住みよい生活環境」のところで、人とのつながりや交流の後ろに、「思いやりのもてる景観文化を育て」を入れると生活している人と景観を近づけることができるのではないか。
- ・ 行動指針に記載している、4つの姿勢「普遍的、過去、現在、未来」はすごくいい。
- ・ 基本理念は、曖昧ではだめだし、感情的でもだめ。
- ・ 守る、残す・活かす、伝えるということがあるといい。「守る」のは今僕らがやっているような倶知安のことを知ることが必要ということ。「残す・活かす」は町の人々が知って活用すること、例えば倶知安の花で花壇をつくる、植樹するのもイタヤカエデにするなど。「伝える」というのは学校教育に使う、町の人に伝えるなどを意味する。
- ・ 倶知安に住んでいる子供たちが、「景観文化」というのを学んでいけるといい。
- ・ 「愛着を持って誇りを持つ」。行動指針の頭の文章に「愛着と誇りを持って、思いやりの行動を持ちましょう」ということを入れてはどうか。
- ・ 「倶知安スタイル」まではいかないが、倶知安ならではの時間が過ごせるようなことを目指していけると良い。
- ・ 倶知安スタイルをつくっていくことは本当に大事「倶知安ならではの景観」を作る。その思いを入れていくと理念ができると思う。
- ・ 理念などで記載するときには「羊蹄山」とした方がいい。
- ・ (分かりやすく) 実際に行動に移せる言葉が良い。
- ・ いろいろな開発にとらわれて経済に走るんじゃなく、「この当たり前のこの景観をそのまま残したい」という強い想いがある。
- ・ 基本理念には、「羊蹄山がまちのシンボル、ランドマークなんだ」ということがしっかり入っているといい。
- ・ 理念は町民の方の思いが込められていくものだと思う。
- ・ 「景観文化」という言葉を大事にしたらそこからいろいろなことを説明できると思う。
- ・ 「倶知安らしい景観文化を育み続ける」というのが基本理念になる。
- ・ 全部ひっくるめて一つの言葉で言えば、「倶知安スタイル」で表せられるのではないか。
- ・ 「倶知安らしい」ということはとても大事である。
- ・ なんとなくうわべだけな気がする。それは「人」が入っていないからだと思う。
- ・ 「この大地を損なうことなく」というのは全然開発できないということか。今の状態を維持するという考え方が心配。
- ・ 「住民の生活あふれ返る」みたいなフレーズを入れるといいのでは。
- ・ 未来に対する姿勢の「未来へ」という考えは何となく好き。
- ・ (行動指針の)「損なうことなく」という表現がなんとなく固いという感じがする。「守り」とかでもいい。
- ・ 羊蹄をシンボリックに扱い、山があって川があって、そこに広い農地がある景観を印象付けてはどうか。

- ・ 「未来へ人がつなぐ羊蹄の輝き」というふうに、人を入れてはどうか。
- ・ 「景観文化」という押さえ方はしっくりきていると思う。その中にはみなさんが言っている倶知安の人たちの生活スタイルも入ってくると思う。

○ 大萱委員からの基本理念の提案

基本理念について多様な見解が出ましたが、基本理念の表現は時代の変化に耐えられ、子供にも分かる文章でありたい。

景観の構成は、天然の自然景観と人々の絶え間ない活動が築き上げた生活景観に大別される。自然景観を背景とした生活景観を互いに意識し気さくに話し合うことが当たり前になる姿が景観文化と言える。

この地域で不変の存在は、姿、形を含めて羊蹄山が唯一無二の存在で、四季折々の美しさと威厳を伝えてくれる。

案 『羊蹄山に守られ倶知安らしい美しい景観文化を育てつづける』

○ 前回、検討会議において、事務局が提案した基本理念(案)

【案1】 羊蹄を心の支えに 未来明るく ～ 豊かな自然と歴史を感じ 町民と風景を育む ～

【案2】 未来へつなぐ 羊蹄の恵み ～ ひと・自然を慈しみ 風景に にじみ出るまち ～

【案3】 いつもふるさと 羊蹄の輝き ～ 自然の恵みと人の営みを 未来につなぐ ～

【案4】 心にいろいろ 記憶に残るまち ～ 歴史が育んだ風景を誇りと心のよりどころに 豊かに暮らすまち ～

【案5】 未来につなぐ、この美しい風景を